

南方型の f. *typica* YENDO に含まれるものであるだろうか^{3),5)} (第2図)。布株をつけているものは観察できなかつた。

最後に御指導を賜わり、且御校閲下さつた九大農学部瀬川宗吉博士に深謝する。

文 献

1. FELDMANN, J. (1937): Rev. Algologique, 10, 1~339.
2. HIROSE, H. (1957): Biol. Jour. Okayama Univ., 3, 87~106.
3. 岡村金太郎 (1936): 日本海藻誌, 282.
4. 瀬川宗吉 (1956): 原色日本海藻図鑑, 62.
5. 遠藤吉三郎 (1913): 海産植物学, 377.

(香川大学学芸学部生物研究室)

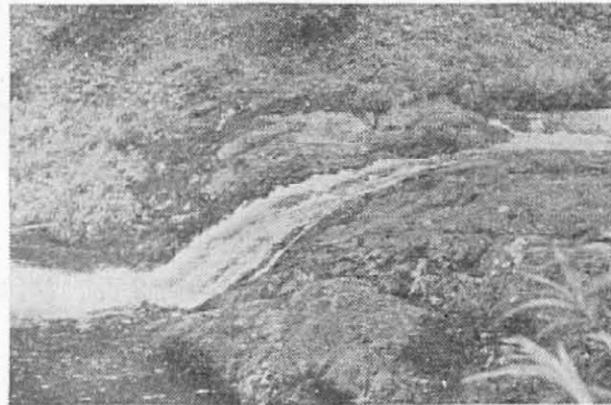
アシツキ *Nostoc verrucosum* VAUCHER が 鳥取県に産すること

御 船 政 明

本植物は産地によつて「アシツキ」、「カモガワノリ」、「アネガワクラゲ」等と呼ばれ、「アシツキ」は清流の葦の茎葉につくことから名づけられたものであるが、普通岩板、石塊上等につく場合の方が多い。

筆者は1957年9月15日に鳥取県東伯郡三朝町大字三徳(みとく)の三徳川の溪流中に本植物が生育していることを認めた。同年10月2日再度調査の結果、本植物は同溪流の更に上流3km位迄は生育していることを確めたので、その生育する範囲は更に広いものと思われる。同日午後3時の水温は14.5°Cで、pH=7.0(比色法により測定)であつた。

本植物は巨岩の水面ないしは水面近くの垂直な面に、或いは川床を形成する岩の水面近くの部分、或いはたえず水しぶきのかかる部分の垂直な面や水平



アシツキを採集した場所
三徳川馬洗い淵

面に付着している。

本植物の幼体は「ひわ色」を呈し、成体は「こび色」を呈し、表面に半球上の凹凸の著しいことも、よく本種の特徴をあらわしている。

本植物の同定並びに御指導を受けた神戸大学理学部広瀬弘幸教授に感謝します。

(岡山大学温泉研究所)

新 著 紹 介

テイラー 著

北アメリカ北東沿岸産海藻 (1957) [改訂版]

W. R. TAYLOR: Marine Algae of the Northeastern coast of
North America (1957) Second revised edition
—Ann Arbor The University of Michigan Press—
(Price \$ 12.5)

本書は已に著者が1937年に同題で出版したものの改訂版で、初版が出された時大讃辭を以て迎へられたものである。往時の *The Biologist* 誌の書評に、「本書は極めて卓越したものであり……、これは著者が永年ウヅホールの臨海実験所に於て教鞭をとつた豊富な経験とその造詣深い海藻の知識から生れたもので、アメリカではこの著に匹敵するものは見当らない」と。斯様に北アメリカ大西洋岸のフロラを究明した本書は分類学的又形態学的研究に於て高く評価され、従来諸国の藻類学者によつて引用され、且重要な文献として挙げられてきた。爾來星霜を重ねること20年、茲に著者が種々のデータを追加し面目を一新して改訂版を世におくつたことは極めて有意義のことと惟う。此の改訂版は現在の分類学上の成果や命名法の最新のものを取り入れた正に北アメリカ北東沿岸産海藻の集大成であり、宝典であると云つても過言ではあるまい。

又本書はミシガン大学科学叢書18巻に該当している。著者は本書出版の為に25年間の協力と激励を惜しまなかつたジーン・グラント・テイラー夫人に対する最大の謝辭を述べて巻頭を飾つている。

以下順次紙面の許す限り内容に触れてみたいと思う。本書は全500余頁の大著であり、初版よりも約80頁の増加である。序(2頁)、緒論(24頁)、分類表(9頁)、記載(315頁)、文献(18頁)、図版(60枚)、同説明(60頁)、索引(19頁)に大別できる。()内は使用頁数及び枚数を示したのである。

[序] ここでは改訂版出版の必要性とその経緯及び援助を受けた各位への謝辭がのべられている。特に図版の多くはチン・チャー・ジャオ博士の手をわづらわしたことを述べてそ